地域資源を活かした「明延」のまちづくり支援

明延鉱山のまち

兵庫県養父市大屋町明延は、但馬の山間にあるひっそりした集落です。かつてはスズ、銅などを採掘していた明延鉱山のまちとして栄えた歴史をもち、地域には、坑道や一円電車（かつて鉱石の輸送や住民の足として運賃 1 円で走っていた鉱山鉄道）などの鉱山関係の地域資源が点在しています。しかし、閉山後は、過疎化が進行し、限界集落となっています。

1．「人づくり」の支援

明延に点在する地域資源を保全・活用し、地域の生活支援を行う地元の「NPO 法人一円電車あけのべ」がまちづくりの中心を担っていますが、人口減少が続く明延では、まちづくりの担い手育成が課題です。住民だけでなく、地域の外の人も明延のまちづくりにかかわり、一緒に盛りあげていくことが大切です。

平成 25、26 年度は、明延の地域資源を活用する方策について、住民、地元 NPO、行政に加え、専門分野の学生、地域外の NPO や都市部の支援者など、様々な立場の方を交えての勉強会と意見交換会（ワークショップ）を行いました。また、平成 27 年度は、大屋町で主に芸術活動を行う「NPO 法人おおやアート村」のアーティストと、明延の方々がコラボレーションして作品を共同制作する交流イベントを実験的に行いました（写真 1）。

さらに、都市部など遠方から訪れた方々に、明延に少しでも愛着をもってもらえるよう、最盛期の明延の再現模型を制作し、その模型の山の木々を、訪れた方々が参加しながら制作できるワークショップを開催しました（写真 2）。

このような活動を通じ、明延に関心を持ち、明延のまちづくりにかかわってくれる仲間が、1 人でも増えてくれることを期待しています。

写真 1　明延の方とおおやアート村の方が共同制作した「古着で編む巨大コタツかけ」

写真 2　再現模型に植える「木々の模型」の制作に参加してくれた都市部の子どもたち

2．「場づくり」の支援

鉱山で栄えた当時には所狭しと建ち並んでいた長屋の社宅が、わずか 4 棟のみ空き家で残されています（旧北星長屋社宅）。この貴重な社宅を保全・活用するため、市や地元 NPO らと協働で、社宅の活用実践を行っています。

平成 26 年度は、地域の方から明延の古い写真を収集し、社宅内で展示を行う「あけのべ古写真展」を開催しました。空き家後はじめて社宅内に明かりが灯り、多くの観覧者で賑わいました（写真 3）。さらに、平成 27 年度の交流イベントでは、社宅内で火鉢を囲んで、あたたかな食や手仕事を体験する企画を実践しました。少しずつですが、かつての社宅のぬくもりが蘇っていくように感じます。今後は、社宅のアトリエ的な利用など、短期滞在型の利用ができないかと思案しています。

このような活動が、坑道や一円電車だけではない、明延の魅力づくりにつながるのではないかと期待しています。

3．「景観づくり」の支援

明延には、鉱山まちならではの街並みなど、貴重な景観があります。これらを保全していくため、平成 26 年度に、行政、NPO らと協働で、明延の住民に対する景観の意識調査を実施しました。その結果、住民は、寺院や神社など信仰に関係する景観のほか、子どもの頃遊び場であった「清流」「桜ヶ丘のサクラやモミジ」など、生活に密着した身近な景観を残したいと認識していました。このような住民の認識を踏まえ、明延の景観の保全・活用の手立てを考えていければと考えています。

写真 3　旧北星社宅内にて開催した「あけのべ古写真展」の様子

地域づくり支援プロジェクト（明延地域）
代表者：大平　和弘
分担者：田原直樹，藤本真里，赤澤宏樹，上田萌子
連携・協力団体：養父市，NPO法人一円電車あけのべ，鉱石の道明延実行委員会，NPO 法人おおやアート村
財源：文科省「地（知）の拠点整備事業」